

特42

459

舟糸菱

東 京 圖 書 館

一 一〇 冊	七 一 號	四 七 架	七 函	音 樂 類	和 書 門
--------------	-------------	-------------	--------	-------------	-------------



船無慶

今思ひつゝ様衣く^下海路をいつ

と定め^早加^い候^い者^は西塔^の

傍^に住居^をと^り武蔵^の坊^に無^き慶^{あり}て^は

拙^も我^の君^を判^官殿^へ頼^朝乃^の御^代衣

少^して^は平^家と^して^は白^の帝^兄

帝^乃は^中目^月の^いふ^まに^また^りて^は

舟

かひうひあひ者の謔言より中
たうれいなり。なとも口惜ひの言よ
ての御まを我君親兄の礼をたそ
きり終日一まる朝と名用とあつてあ
國の方へ下向あり。信才よあやまり
おこしめは款とあき馬よ。今のおとそ
め渡よとて船よる。津乃國居り。等

大物の浦へと名作 サシ 文治の初
めつゝ頼朝義經不_{判友}去入由政よ落
み_{判友}力あり 判友 都とまよ。この道
きり_{判友} あらぬ其はらまよ。西國の方へ
立寄 あり 立寄 ても雲井の月
あつても惜ひの言はつて粉平家
信才の都あよ。いへて唯十余人

為り申すは是れは思ふ^{ニテ}

も^ト頼^ルも頼^ルあ^ル人の言^ハある^ニ

行^ハた^ル女^ノや^ハ依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

ある^ニ ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス ^ト依^ル ^{ニテ} 御^ノ事^ハを^シ事^トと^ス

まいつて借ま令比君う二度降之

とう思行ま志判あつて年慶詩

ま滴さすあつて年まて公うま是

法門出の行末まうと菊の盛せん詩

ま社まあまきれ年量ま君の詩

まきあ方あつてまはれて涙ま

ま計あり年あつてまはるま

あつて様乃毎路の門出入和乎せん

一歩とま年ま其時静ま

う時調子まあつて渡口の部せん

風ま年ま地波頭れ年満可ま

目青て年ま年見ま急年ま年あ

まま年あ年あ年あ年あ年あ

も恥年あ年あ年あ年あ年あ

まゝあひまね山よ難のわて後乃
智略であつて終は異王をせりて
百餘の本意をわたりしものも
高師の二度よりさうり曹魏の駐と
すきも陶朱切をむとさうやばま
越乃長下あつてまじつるもの
切らぬ貴人かゝるもあつて

成名をきしてさきくさつて天乃道
とくさつて船を掉けりて立湖のを
鳴と大なりしものも後にも月
の月乃もさつてついで西海の波
傳よ歌きしはこれ科のあつて
さつて頼朝も終よなりし青柳
の枝さつてるは契あつて朽しえ

申よ静よち孫と信情を承りては
 留し奉る事思案をては承りて
 今此は此の如程の事余津運も
 して承りては其の上一年渡邊福
 鳴と出の時承りては承りては
 毎出の事承りては承りては
 今承りては承りては承りては

すー
 款の事承りては承りては
 出の事承りては承りては
 の武庫承りては承りては
 承りては承りては承りては
 承りては承りては承りては
 承りては承りては承りては

アヤカニ
いふよむを致敷此は母よあやむかひてん

判
つづきぞ頼りしやうの船中かへん

上カニ
あ事きしきききききききききき

西國までさききききききききき

ほしきききききききききききき

判
さあさあさあさあさあさあさあ

判
今更ぬきしききききききききき

あさささささささささささささ

通のきききききききききききき

天命よききききききききききき

始めきききききききききききき

まじりききききききききききき

身天皇九代乃な後平の知威出雲

判
あさささささささささささささ

浦^上の^上色^下を^下入^下り^下す

信^上威^下の^下沉^下す^下 其^下あり^下て^下 様^下子^下 又^下義^下經^下

も^下海^下子^下を^下か^下し^下て^下 浪^下子^下を^下長^下

刀^下を^下あ^下り^下て^下 波^下の^下紋^下を^下す^下 松^下

湖^下を^下き^下き^下て^下 雲^下を^下吹^下き^下 眼^下を^下く^下

心^下も^下あ^下り^下て^下 計^下を^下す^下

あり^下 其^下時^下義^下經^下も^下あ^下り^下

う^下ら^下お^下接^下お^下り^下て^下 人^下を^下す^下

言^下を^下さ^下り^下て^下 鈴^下を^下あ^下り^下

隔^下て^下 物^下を^下あ^下り^下

殊^下に^下 押^下さ^下り^下て^下 東^下方^下降^下

方^下軍^下の^下利^下が^下 西^下方^下大^下威^下徳^下が^下

夜^下又^下明^下王^下中^下央^下大^下聖^下不^下動^下明^下

々^下よ^下お^下き^下て^下 行^下を^下す^下

明治十七年三月六日翻刻御届
同年四月十二日別製本御届

定價四錢

翻刻人

京都府平民

寺田熊次

下京區第五組麩屋町

錦小路五梅屋町十三番戶



